


親の会だより

第102号 発行日 令和3年7月19日
 発行 岩手県ことばを育む親の会
 会長 主濱 友子 
 事務局 盛岡市立桜城小学校きこえとことばの教室内

日頃から、岩手県ことばを育む親の会活動にご理解とご協力をいただき有難うございます。
 岩手県における新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、昨年以來活動にも影響を及ぼしています。今年度の事業につきましても、多くの方々が集めることは、参加者の安全を配慮して「第50回岩手県ことばを育む親の会大会釜石・大槌大会」「親子合宿研修会（サマーキャンプ in カシオペア）」「幼児期の言語教育研修講座」は中止といたしました。

なお「第50回岩手県ことばを育む親の会大会釜石・大槌大会」については、大会誌を作成して各支部及び関係者に配付することによって「第50回岩手県ことばを育む親の会大会釜石・大槌大会」といたします。これまで開催に向けて準備を重ね奮闘してくださいました、親の会大会・親子合宿研修会の開催実行委員会、関係者の皆様には心から感謝とお礼を申し上げます。

また、今年度の総会につきましても「書面による開催」とさせていただきますことへの皆様のご理解に感謝申し上げます。

今後の活動に関しましても、新型コロナウイルス感染状況を注視しながら動向を判断し、ねらいを達成するための活動方法を考え、教室担当の先生方、関係機関の皆様方のご支援をいただきながら「だれでも・いつでも・どこでも」適切な教育を受けられる体制をめざし「子どもたちのために」活動を進めて参りたいと考えています。皆様のご理解の程、宜しくお願ひ申し上げます。



令和3年度 県親の会総会

今年度の総会は、新型コロナ感染の拡大状況により、書面による開催となりました。

事務局より、昨年度の活動経過報告・決算報告があり、今年度の活動方針・事業計画・予算案が提案され可決されました。

また、今後2年間の役員として、次の方々が再任されました。

会長	主濱 友子 (再任)		
副会長	岡崎 清弘 (再任)	林 義明 (再任)	
	小崎 真樹 (再任)	櫻岡 正久 (再任)	
事務局長	小原 俊彦 (再任)		
会計監事	橋本 政樹 (再任)	田口 好子 (再任)	



<今年度の事業計画>

○第50回岩手県ことばを育む親の会大会 釜石・大槌大会については、大会誌および研修・講演のDVDを各教室に配付します。

○第37回幼児期の言語教育研修講座は中止です。

○ブロック研修会の開催（9月～11月）予定

○すっぴんの会（吃音がある子と保護者の交流会）の開催…令和4年1月29日（土）予定

○その他

- ・支部訪問の実施
- ・会報やホームページの活用
- ・親の会パンフレットの活用
- ・軽度・中等度難聴児の補聴器購入のための公費助成の周知とはたらきかけ

※ 新型コロナウイルス感染症の集団感染を防止する観点から、状況に応じて変更の可能性があります。

第50回岩手県ことばを育む親の会大会釜石・大槌大会

☆研修①「釜石・大槌親の会 50年の歩み」の「語り」と「大会宣言」の収録について

6月9日(水)18:30より、大槌町文化交流センター(おしゃっち)において「語り」と「大会宣言」の収録を行いました。この模様は釜石ブロードネットが取材しました。6月26日から釜石市内のケーブルテレビで放送されています。

【語り手の皆さん】

大槌支部 越田由美子さん 道又 衛さん
釜石支部 沼崎 優さん 佐々木智輝さん
佐々木信孝さん

【大会宣言読み上げ】

釜石支部 佐々木智恵さん



☆第50回岩手県ことばを育む親の会大会 釜石・大槌大会講演会の収録

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大会誌作成(講演会CD付き)をもって開催に代えることとして釜石・大槌大会の講演会のCD収録が6月26日(土)岩手県民会館会議室において、前大槌町教育委員会教育長 伊藤 正治 氏 を講師として、実行委員会と県親の会の役員が参加して行われました。

第50回大会、そして震災から10年を経過して、岩手県のきこえとことばの教育発祥の地である釜石・大槌での開催として多くの会員の皆様に直接会場でお聞きいただけないのは残念ですが、記念大会にふさわしい、大槌町の「ことばの教室」開設にまつわるお話や震災を経験して「仮住まい」「仮設校舎」から現在への復興の道のり、新たな大槌型の学びの実現など、大変貴重なお話の数々をお聞きすることができました。ぜひ配付されるCDを通じてご覧ください。

演題「伝えることば 伝わるころ」 講師：前大槌町教育委員会教育長 伊藤 正治 氏

内容 ○大槌町での「ことばの教室」の誕生までの歩みや課題等

指導者の育成、教室環境の整備、学びへの理解

特別支援教育への偏見がまだ残っているなか、先生や親を含めて周りが通級する子どもたちの心情をどこまで理解しているか、サポートできているか考えることが大切である。

○東日本大震災による「学びの場の喪失」からの復興

大槌町教育長として大槌町役場庁舎で被災し、九死に一生を得た自らの体験と、被災しながら懸命に耐える子どもたちの姿や、教育長として「ことばの教室」を含めて一生に一度しかないその子の貴重な学びの時間を取り戻そうとする強い思い。また、多くの方々から支援を受けながら小中一貫教育の新たな学校環境を整え、「ふるさとを創り、ふるさとに生きる」人材を育成する特別科目「ふるさと科」創設や防災学習の充実継承、地域との学びの共同体であるコミュニティスクール(地域立学校)づくりなどの活動が復興を進めてきた。



< NPO 法人全国ことばを育む会 研修会・総会 >

令和3年6月5日(土)～6日(日)「NPO 法人全国ことばを育む会令和3年度研修会・総会」(オンライン)開催。県親の会からは会長、事務局長、事務局次長が参加しました。研修会には、全国から49名の参加がありました。

演題： 分かり合い、支え合い、育ち合い

～子どもの思い、保護者の思い、教師の思いを見つめて～

講師： 独立行政法人国立特別支援教育研究所

上席総括研究員 牧野泰美(まきの やすみ)先生

小学2年生まで学校で話すことのなかったというご自身の話、親・先生との関係性の大切さ、通級指導教室のよさなどをお話しくださいました。